

始良・伊佐地域 青少年育成だより

発行
始良・伊佐地域青少年育成推進協議会
第38号 平成31年3月

〒899-5212 始良市加治木町諏訪町12
始良・伊佐地域振興局 総務企画課 地域振興係
TEL 0995-63-8109 FAX 0995-63-8108
HP 鹿児島県始良・伊佐地域振興局 健康・福祉 [検索](#)



「H30始良・伊佐地域 青少年環境づくり懇談会」開催

～「青少年が「夢」を抱いて
健全に育つ環境づくり」を語る！！～

平成30年11月26日(月)午前10時から12時まで始良・伊佐地域振興局で開催し、38名が参加されました。本懇談会は、関係業界、学校、警察、地域、関係機関・団体等の代表者が、地域の青少年問題及び有害環境について情報交換を行い、相互に連携を深め、一体となった社会環境浄化活動への取組を行うため、毎年開催しています。本年度のテーマや会の流れは下記の通りでした。

- 1 開会のあいさつ
- 2 講話
「青少年が「夢」を抱いて健全に育つ環境づくりについて」
～地域で育む青少年育成「持続的に活動出来るシステムを」～
(講師)特定非営利活動法人地域サポートよしのねぎぼうず
理事長 永山 恵子
- 3 報告「青少年を取り巻く社会環境について」
 - (1) 管内における青少年非行の現状(各警察署)
 - (2) 青少年育成コーディネーターから活動報告
 - (3) 青少年保護育成条例に基づく立ち入り調査結果の報告
- 4 意見交換
 - (1) 講話・報告等についての感想等
 - (2) 「地域の教育力を高めるための手立て」について
 - (3) 「青少年健全育成のリーダー養成」について
 - (4) 各グループから協議内容報告
- 5 閉会

素晴らしい社会環境の整備こそが、青少年の健全育成の最善策と常に大きな声で叫ばれています。中でも、指導者の陣容充実が最重要課題です。幸いにして当管内は、どの市町も素晴らしい指導者の皆様が、永年にわたり活躍しています。しかし、「高齢化のため後継者育成が急務」という、大きな課題が忍び寄っています。

そこで今回は、まず、よしのねぎぼうず理事長の永山恵子氏が、地域での実践を通じた青少年健全育成の在り方について述べられ、一同大感銘でした。

次に、管内四つの警察署や青少年育成コーディネーター2名からの活動報告等で、管内における青少年の非行等に関する現状把握に努めました。



最後に、意見交換では、「地域の教育力を高めるための手立て」と、「青少年健全育成のリーダー養成」の2点に絞り、その具体策を協議しました。出席者の殆どが、「避けて通れない、緊急かつ重要課題。簡単ではないけど何とかしないと！」と真剣に協議しました。昨年に続きグループ討議で、とても活発な討議がなされました。「どこの地域も経験豊富な高齢者の活用に努めた方が良い。」「各地域で、出会いの場をつくり、仲間の顔を覚えることから始めて欲しい。」等の貴重な意見が出ました。

**「横瀬棒踊り子ども塾」・「川添子ども会」を
平成30年度「優れた地域塾」として認証！！**



かごしま地域塾として活動を展開している「横瀬棒踊り子ども塾」・「川添子ども会」の2団体が、このほど平成30年度「優れた地域塾」として認証されました。この2団体は、去る2月3日(日)に開催された平成30年度「かごしま地域塾グレードアップセミナー」の中でめでたく認証されました。そこで、この2団体の活動紹介と関係者の喜びの声をお届けします。

【 横瀬棒踊り子ども塾 】



代表者名	厚地 博文(「横瀬棒踊り保存会」会長)
会員の構成	小学生 23人 中学生 8人 その他 10人 計 41人
主な活動	1 「横瀬棒踊り」の継承・保存活動 (1)和気神社「藤まつり」奉納 (2)合同運動会での「棒踊り」披露 (3)「棒踊り」にかんする学習会 2 校区内清掃等ボランティア活動等

今活動の中心は、校区に昔から伝わる「横瀬棒踊り」の継承・保存活動である。

今回の受賞に厚地博文会長は「今回の表彰を弾みに、さらに活動を活性化させ、優れた地域塾に相応しい団体を目指します。」と喜びと決意を述べられました。

【 川添子ども会 】

代表者名	南 祐作
会員の構成	幼児 6人, 小学生27人, 中学生 7人 その他 33人 計 73人
主な活動	1「伝統文化」の継承活動 (1)「十五夜どろぼう」の継承 (2)「川添太鼓踊り」の練習・披露 (3)「川添俵踊り」の練習・披露 2 老人クラブとのふれあい活動等



活動の中心は、校区に昔から伝わる「川添太鼓踊り」「川添俵踊り」の継承・保存活動である。

代表の南祐作氏は、「地域塾関係者が、毎月精一杯活動して来たので、今回の認証はとても嬉しいです。子どもたちの健全育成のためにも、この活動を毎年続けて行きたいと思います。」と決意を述べられました。

平成30年度新規「かごしま地域塾」本地区で3団体登録

新規「地域塾」名	代表者名	会員数	所属市町
「霧島市文化財少年団地域塾」	西 潤一	56人	霧島市
「漆・田の神さあ子ども塾」	小長野 一世	74人	始良市
「轟・おどろき塾」	植林 伸洋	205人	湧水町



霧島市立国分南中学校 全国大会や九州大会へ続々

駅伝クラブや野球部等大飛躍！！

「駅伝女子チーム県大会初優勝！」「野球部県大会優勝！」次々と飛び込んで来る朗報。今や学校は、歓喜の声で沸き立っています。

本年度は、まず駅伝クラブが男女アベック優勝。特に女子は、九州大会にも全国大会にも出場するという快進撃を成し遂げました。このことは、他の部にも「やれば出来る！」という大きな刺激を与えました。全ての部での練習態度も、見違えるほど真剣になり、続々と好結果を生み出しました。

「自分の夢・目標の実現」に果敢にチャレンジする気迫に満ちた生徒の育成を目指す校長・教職員全員の思いが短期間に見事に結実したのです。

まずは、部活動により、「気迫に満ちあふれた生徒」の育成からと、スタートしたのです。「全ての生徒たちへ愛情を注ぐ！」「生徒たちの良さを引き出し、可能性を最大限に広げる！」の合い言葉で、職員や保護者・校区民一体となって教育活動を展開してきました。その中でまずは、部活動を通して、学校を活性化させることからスタートしました。それから3年、駅伝クラブや野球部等、「県大会で優勝！九州大会へ！全国大会へ！」と続々と報告されました。たかが部活動。されど部活動。想い描いたとおり、学校のボルテージは一気に最高潮に達しました。今や学校は、生徒たちのやる気で満ちあふれています。

まず駅伝クラブが、氣勢を上げました。職員スタッフ12名が「組織体で負けない！」を合い言葉に、部活動の枠を超える涙ぐましい努力を続け、平成28年度には、男子が早くも地区で初優勝を飾りました。これを皮切りに平成29年度は、女子が地区初優勝！（県2位、九州5位）そして、本年度は、地区で男女アベック優勝。女子は、九州大会にも全国大会にも出場するという快進撃を成し遂げました。この快挙により、ついに地元経営者によるバスの提供や大会参加に係る費用の助成なども始まりました。この熱気は、校区民の皆様的心里にも火をつけ、物心両面からの大きな後押しと成りました。今や、全ての部は、「全校生徒はもちろん、地域からも応援され、愛されるチームであれ！」を合い言葉に、練習に打ち込んでいます。その成果は、まだまだ継続中で、今度は、卓球部の女子が県新人大会を制し、今春、九州・全国大会へ出場します。駅伝クラブの好結果が、学校の大躍進を呼び込んだのです。



地区総体駅伝大会（男・女 優勝）



地域運動会でのダンス部

尺八で地域民と交流 国分小6年 野方峻太郎君

国分小学校6年生の野方峻太郎君は、尺八の演奏を通して地域の方々との交流を深めています。彼は次のように述べました。「私は、週1日だけ尺八を習っています。昨年11月3日に大勢の方々から演奏を聴いていただきました。その時は、少し緊張しましたが、練習の成果を出して上手に演奏出来ました。琴ともうまく合わすことが出来、また少し上達したなと嬉しくなりました。この文化祭を期に、私も都山流尺八霧島照山会の一員になれたような気がしました。尺八は、音を出すのが難しい楽器です。肺活量も少ない上に、あごも小さく音程が外れることもあります。それでも、私は、大人の人みたいに吹きたいという思いが強いのです。なぜなら、尺八こそが、私が、地域の方々との交流出来る楽器だからです。色々な所で尺八を演奏することによって、ますます交流を深め、さらに、あまり尺八の素晴らしい音色を聞く機会のない方々に、尺八の素晴らしいさを知って貰いたいです。それが、今の私の大きな楽しみだからです。」



また、父親の利映さんは、「峻太郎も、なかなか音が出せず、苦労しましたが、練習を積み重ね、初めて音が出せた時の笑顔がとても印象的でした。今は、仲間の皆さんのお蔭で、演奏会にも出演出来、とても良い経験をさせてもらい、有難いことと感謝で一杯です。」と述べられました。



「どんぐりピアノ」が育む三体っ子

昨年の10月、霧島市立三体小学校では、64年間にわたり引き継がれるグランドピアノを使ったコンサートが開催されました。そのピアノは、昭和27年の戦後間もない時代に、当時の先生方や親・校区の方々が、「全児童にピアノの音色を聴かせたい。」と切に願い、どんぐりを5万本植林して、購入されたものです。以来、そのピアノは、「どんぐりピアノ」と呼ばれることになりました。

昭和27年の「秋の一日遠足」で、小・中学校生180名が、近くの山でどんぐりを200キログラム拾いました。そのどんぐりを畑や校庭で苗に育て、2年後には、5万本のくぬぎ苗が揃いました。その苗代が11万円、町からの補助金が18万円、合計29万円の資金が調達されました。そして、昭和29年10月。待ちに待った「どんぐりピアノ」が届きました。当時の教頭今別府元（いまべっふ はじめ）先生が、子供たちや保護者等の要望に応え「どんぐりピアノの歌」を作词・作曲し、児童たちと披露しました。その様子は、新聞でも報道されています。



以来「どんぐりピアノの歌」は、学習発表会で毎年披露されています。また、ピアノは現在でも現役で活躍し毎年の学習発表会やコンサートなどで演奏に利用されています。平成12年には、手作りの大型絵本「ぼくはどんぐりピアノ」も保護者・教職員により作成されました。こちらも学習発表会で隔年毎に、読み聞かせが実施され、ピアノや歌とともに、校区民皆に愛されています。本年には、ついに念願の絵本になります。

音楽活動で児童と地域に活気を！！

霧島市立佐々木小学校の徳永さとみ校長先生が、「本校は、音楽活動を特色ある教育活動にしたい！！」と取り組まれ、やがて2年になる。校長先生は、まず、戦後間もなく出来た歌詞に、自ら曲をつけ「佐々木小唄」として発表。機会あるごとにその歌や唱歌などを次々に歌わせた。そのうち全児童に自信をもたせ、自己肯定感も高めさせたいと、人前で歌わせることに踏み切られた。このことが横川駅でのコンサートにまで広がり、ついには、町内を音楽活動で活気づかせることに。そして、気づいたら別表のように、1年を通しての素晴らしい「音楽活動」になっていたとのこと。今や、出番を待つ児童たちから「よかたいが。まっごてん、けしませんが！！」「だよね！」という会話が聞こえて来るとか。子どもたちは、もう大勢の客の前でも堂々と歌いこなすまでに大成長。その後、別表のように音楽コンクール出場・作曲コンクール応募など数々のチャレンジを続けている。そのお陰で、鹿児島作曲協会が主催する「県児童・生徒作曲コンクール」で最優秀賞・優秀賞・優良賞を4名も受賞した。今や学校は音楽ブームに沸き返り、「児童数は本当に16名？」と、訪れた方々が驚きの声を挙げるほど、賑やかで活気がある。最近、朝夕の登下校時も、何か常にブツブツ言っているねと思ったら「新しい曲作り中です！」とのこと。時々、校区内を歩くと「校長先生！子どもたちの歌声に元気をもらっています！」と校区民の声。これに徳永校長先生は、「さらに『挑む』音楽活動で、益々子どもたちの自己肯定感を高め、保護者・地域の方々にも元気を分けてあげられるように、チャレンジし続けたいと思います。」と決意を述べられた。



4月	小さな学校音楽コンクール応募	11月	横川町文化祭出演 学習発表会での発表
7月	県児童・生徒作曲コンクール取組 われは海の子合唱コンクール出場	12月	国分中央高校吹奏楽部による演奏会 (本校にて開催)
10月	横川ハロウィンまつり出演	2月	卒業式でのオリジナルソング取組

霧島市（霧島地区）の青少年健全育成活動

霧島市霧島地区子ども会育成連絡協議会

11月11日（日）、秋晴れの下、霧島地区子ども会育成連絡協議会主催による「霧島地区ふるさと巡り歩こう会」を開催しました。

今回で4回目の歩こう会は、地元霧島地区の子ども会員・保護者・地区民等50名をはじめ、霧島市内各地区子ども会員・保護者ら30名も参加し、合計80名による賑やかな会になりました。

霧島市観光案内所を基点に、霧島神水峡や霧島神宮周辺に点在するパワースポットの散策をはじめ、普段は見ることのない砂防工事の現場も取り入れるなど、コースの設定も工夫を凝らしました。そのことで、参加者80名は、霧島の歴史や史跡にも触れながら、初秋の霧島路約4kmのコースを、2時間余り歩き、思い思いに堪能されていました。

またゴール後には、ジオラマを用いた砂防ダムに関する説明の時間も組み入れ、参加者らは、工事関係者の説明に真剣に聞き入っていました。参加した大田小5年生の男児は、「さわやかな天候で、歩きやすく、かねて見られない工事現場やそれに関する説明も聞いた。それに体力づくりも出来て最高でした。育成会の人たちと話しも出来て本当に楽しかったです。アツという間の2時間でした。」と感想を述べてくれました。参加者の多くが喜ぶ「歩こう会」になり、「大会の趣旨は、達成できた。」と関係者は安堵でした。



開会式



霧島神水峡



霧島神宮



砂防ダム説明

【コース説明】

霧島市観光案内所 → 霧島大橋（九面橋） → 霧島神水峡（柱状節理等の説明） → 坊主墓 → 華林寺跡 → 御手洗川：霧島七不思議 → 砂防ダム工事現場見学 → 風穴：霧島七不思議 → 亀石：霧島七不思議 → 山神社 → 手水舎 → 霧島神宮本殿 → 霧島神宮御神木 → さざれ石 → 霧島神宮社務所 → 霧島市観光案内所



生活文化科 3 年生調理選択者による 「食物調理 1 級アレンジレシピ屋食会」



食事会のメニュー（一例）



食事会の様子

国分中央高等学校家庭科の専門学科 3 年生は、家庭科技術検定（食物調理・被服製作）に挑戦しています。食物調理 1 級とは、主題に沿った供応食の献立を考え、指定調理を含むフルコース 5 品を 90 分間で作るというものです。1 学期の授業で練り上げ、夏休みに受験しています。

本年度は、初の試みとして、これまでに身に付いた技術を保護者の方へ披露する機会として、食事会を実施しました。検定審査向けの献立から、お招きする方の好みに合う献立へアレンジし直しました。新たに練習することも多くありましたが、親の喜ぶ顔を思い浮かべながら準備する生徒たちはとても幸せそうでした。当日はクリスマスの飾り付けを行い、保護者の方へメッセージ付きの席札を添え、それぞれの料理を振る舞いました。「三年間の成果を感じ取ることができた。」「今までで一番おいしいランチだった。」と大変喜んでいただくことができ、生徒達も達成感あふれる笑顔でいっぱいでした。（平成 30 年 12 月 6 日・13 日）

みんな、みんなが温かくなる！

霧島高校冬のミニフェスタ

平成 30 年 12 月 25 日（火）に、霧島高校において、第 2 回「霧高冬のミニフェスタ」を開催しました。

これは、牧園・横川地域の方々（幼稚園生・小学生・中学生並びにその保護者、高齢者）を対象にした手づくり体験教室で、霧島高校の地域貢献活動の一環です。

今年度は 42 人の方が参加され、大変盛況でした。

実施内容は、「ミニ門松づくり」、「手作りの年賀状づくり」、「きらきらクッキーづくり」、「冬の小物づくり」、「七宝焼きのキーホルダーづくり」の 5 つの教室でした。正月準備として有効なものも

あり、好評で、参加者は張り切っていました。参加者の感想として、「楽しかった。」「霧島高校の生徒が丁寧に教えてくれて、正月前にいい思い出となった。」「作った作品に手づくり感があって、親しみを感じる。」「すべての講座を受講したが、もっといろんなものに挑戦してみたい。」など好意的感想が多数ありました。来年度もより充実してまいります。



続々と「明るい家庭づくり実践講座」実施！！

「鹿児島県青少年育成県民会議」と「県下各地域青少年育成推進協議会」が主催、鹿児島県と県教育委員会も共催で応援しています。「始良・伊佐地域青少年育成推進協議会」が地域内の団体・事業所等に希望を募り、本年度は、13の学校・団体が実施しました。実施済みの2講座の様子を紹介します。

「伊佐市立羽月小学校PTA教育講演会」

- 1 日時 平成30年10月30日(火)
19時から20時30分まで
- 2 演題 「疲れない体づくり」
- 3 講師 薬剤師 前野 聡一郎 氏
KOBAS式体幹トレーニングS級
マスタートレーナー 土生 さとみ 氏



4 講演内容・感想

元気で、常に行動的に動き回っているはずの児童の口から「疲れた！疲れた！」という、思いもしない言葉が良く聞かれる状況から「疲れない体づくり」というテーマでの学習会になった。

講師が「砂糖」を抑えた食生活と生活の中に運動の時間を設定し、毎日繰り返し、習慣化の必要性を強調された。参加者の多くは「講話と実技によりとても分かりやすかった。」「美味しく食べさせたい！だけに気を取られがちだったので調理法や調味料・おやつを選定まで十分気をつけたい。学んだことは直ぐに実践していきたい。」「親子で気をつけて生活したい。」「などの多くの感想等が聞かれ、成果の大きい講演会となった。今後、子どもたちの口から「疲れた！疲れた！」の言葉が聞かれ無くなることを大いに期待したい。

「霧島市立木原小・中学校家庭教育学級」

- 1 日時 平成31年 2月22日(金) 13時から14時40分まで
- 2 演題 「アンガーマネジメント ～怒りを上手に表現するために～」
- 3 講師 メンタルサポート Yuki代表 山元 英之 氏



4 講演内容・感想

講師は、「怒りを上手に表現するために」について語られた。近年、ちょっとしたことで子どもたちがキレて、周りの人々に暴言を吐いたり、暴力を振るったりすることが、残念ながら珍しくない。今回は、それに上手に対応するための学びとした。具体的な怒りの対処法を示され、「分かりやすい！！」と大部分の保護者が感心し、大満足の様子であった。

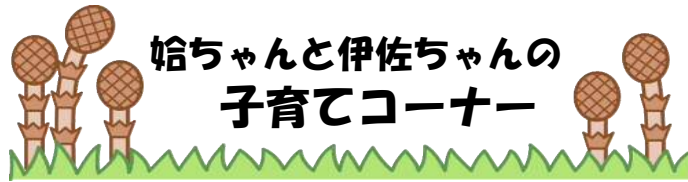


以下、出席者の感想です。

- ・叱ることも大切だと思いますが、それだけでなく、子どもにカウンセリング的な関わり方も出来るようになってほしいと思いました。
- ・親も成長していきたいと感じました。つい、感情的になることがあり、講演を参考にして気持ちにゆとりをもって子どもに接したいと思いました。
- ・つい叱ってしまうことが多いなあと反省しました。子どもとの関わり方について考える良い機会になりました。

《 実施団体名と実施月 》

実施団体名	実施月日	実施団体名	実施月日
始良市立柁城小学校PTA	10月26日	伊佐市立羽月西小学校PTA	12月14日
伊佐市立羽月小学校PTA	10月30日	伊佐市立針持小学校PTA	1月25日
伊佐市立本城小学校	11月4日	霧島市立木原小・中学校PTA	2月22日



一つの躰が身につくまでは「大学生でも67日」も！！

始ちゃん： K子ちゃんとの「親子関係」はどうね？「3C」の効果はどうだったかな？

伊佐ちゃん： すごい効き目よ！あれからすごい頑張りで、「お母さん嬉しいな！」の連発よ。本当に有難う！助かってるわ！！厚かましいけど、またまた聞いて良いかな？今度は、教えた事が一向に身につかないので困っているのよ。「ほら！こうするのだったでしょう！」と言うけど、なかなか出来ないのよ。良い方法はないかな？

始ちゃん： 伊佐ちゃん。子どもを、躰けるためには「**それなりの日数**」が必要でね、何回も何回も繰り返しながら、覚えさせるしかないらしいよ。

伊佐ちゃん： ええ！ ということ？ 「**それなりの日数**」って何日ぐらいなの？

始ちゃん： 伊佐ちゃん。実はね、イギリスのロンドン大学で、学生たちに「靴をそろえる。」「食後は必ず歯磨きをする。」などの習慣化にチャレンジさせたらしいのね。その結果が、驚かないでよ、実は平均**67日**だったそうよ。大学生だよ。大学生！

伊佐ちゃん： ええっ！ 本当？ そんなにもかかるの？ びっくりだわ！

始ちゃん： そう！そうだって！びっくりだよね！ 子どもたちも、えらい「迷惑」よね！ほとんどの大人が、言ったらすぐ出来るものと思いきこんでいるのだからね。必ず、一緒にやりながら「**ハイ、もう一回！**」「**ハイ、もう一回！**」と、何回も何回も繰り返しながら、**粘り強く**覚えさせることが大事なんだって！

是非 K子ちゃんとやってみてよ！

伊佐ちゃん： 分かったわ！大切なことね！！私も**粘り強く**やってみるわ！聞いてみるもんだね。



青少年育成コーディネーターが各地域で青少年健全育成に奮闘！！



青少年育成コーディネーターとは？
各市町に配置され、各市町の青少年育成の中核になり、各小学校区青少年育成組織へ健全育成活動の活性化方策をアドバイスしたり、各種青少年健全育成活動をコーディネートしたりするほか、各市町における青少年の健全育成に関する現状把握や関係機関・団体との連絡調整を行います。



上記の青少年育成コーディネーターが、霧島市4名、伊佐市・始良市は各2名ずつ、湧水町1名の合計9名が配置され、上記の通り活動に専念しておられます。昨年度の途中からは、青少年育成指導員と一緒に学校訪問もしてもらってます。それぞれに自分の仕事や地域の重要な役職を兼務しながら、これからの地域や社会を担う青少年の健全育成活動に大奮闘中です。活動は、もちろんボランティアであり、唯々感謝するしかありません。本当に頭が下がります。

この「育成だより38号」を御高覧くださった皆様は、出会われたら是非「有り難うございます！！」と感謝・労いの声かけを宜しくお願いします。